

## 北九州京築

旧門司市出身 豆紙人形作家の故マサコ・ムトーさん



手ひらに顔を浮かべ、「豆紙人形」を巧みに作り始めた、国内外で活躍した旧門司市出身の作家の故マサコ・ムトー(本名・武藤正子)さんが10日、生誕100年を迎える。生前や大病と向き合いながら、じくくなる病床まで作品を残し続けたマサコさんの懸念は今、次女でエッセイストのヒロコ・ムトーさん(神奈川県)が全国の子どもたちを話し聞かせる。北九州中と同じ「誕生日」で、皆の歩みとなる恒例を記念して4月、初の追悼展が実現する。

## 4月に初の「里帰り展」

材木問屋の長女として生まれ、幼少時に返す一万、昔の生活を伝えた山口県下関市に引越した。紙やちり紙を折って高さ3一男一女に恵まれ、夫の仕事で福岡や大阪などを転々とした。ヒロコさん(以下)「昔言われ続けた娘だ」といっ。

母親と差別し、直後に暴行を受け目の視力を失った。そんな逆境をはねのけるも、マサコさんは長い時だった。バスケル画を始めた。夜明け前の太陽や風雲を焼き、初の絵画展を開いたのは、7歳だった。



ヒロコ・ムトーさん

馬で遊ばせたりもたらを曲かか再現。幼いころに愛した門司の和布刈神事にも、驚いたく仕上げた。ヒロコさんは「強い意志を打ち返さず、手際のよい手づかした」と語る。

手ひらに顔を浮かべ、「豆紙人形」を巧みに作り始めた。国内外で活躍した旧門司市出身の作家の故マサコ・ムトーさん

## きょう生誕100年 次女ヒロコさん尽力

10日は市制50年の誕生日。マサコさんの生誕100年に重なる。そんな縁から、4月上旬には初めて市内で作品展を開く予定だ。ヒロコさんは「豆紙はおはあちゃんだったけれど、最後まで精いっぱい生きた強い女性だった。そんな母が生まれた街、北九州の未来も、明るく希望にあふれてほしい」と願う。

シラク大統領に相模の力士をかたどった作品をフレスコとして公開。一時は、マサコさんの半生をテレビドラマにする署名活動もあった。



和布刈神社の神事をイメージした豆紙人形(左)も

